

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°63 アレックス・フォワヤール

生産地方：ボジョレー

新着ワイン3種類♪

AC ボジョレー・ヴィラージュ 2022 (赤)

2022年は、ブドウが早熟で太陽に恵まれた年。夏は水不足によりブドウがかなり疲弊したが、収穫直前に降った雨のおかげで一気に回復。蓋を開けてみると豊作で果汁を多く含んだみずみずしいブドウを収穫することができた。アレックス曰く、2022年は収穫者が30人と多く、各区画のブドウを思い描いた通りのタイミングで収穫できたとのこと。出来上がったワインは、フレッシュなイチゴやクランベリーなどの官能的な香りがあり、暑い年とは思えないみずみずしい果実味がなんとも心地よい！ピュアな果実味に溶け込んだミネラルもしっかりと感じるとて完成度の高い俊逸なワインだ！

AC ブルイイ 2021 (赤)

2021年は、雨の多い涼しい年でブドウは晩熟だった。収量はミルデューの被害によりドメーヌを立ち上げて以来最低を記録。父親のジャン曰く、1977年に次ぐ試練の年とのこと。醸造は、ブドウの梗の青さが味わいに出ないようにマセラシオン期間を14日間といつもよりも短く切り上げた。また、熟成は例年よりもブドウの収量が少なく樽が余ったため、セメントタンクを使わず100%樽で行なった。出来上がったワインは、果実味がエレガントで、ブルゴーニュの上級なピノノワールにある青竹のような清涼感があり、きれいな酸とタイトなミネラルを感じる！アレックス曰く、ワインはいつもよりもスレンダーで、今から5年くらいまでが一番果実味を感じられるタイミングではあるが、しっかりとしたミネラルがボディーの中心にあるので長期熟成も十分に可能とのこと。

AC コート・ド・ブルイイ 2021 (赤)

2021年は、ブルイイ同様に雨が強くブドウの完熟が難しい年だった。収量もミルデューの被害により最低を記録するなど試練の年だった。収穫したブドウがいつもよりも繊細だったためマセラシオンは14日間と短く切り上げた。また、熟成はフレッシュさとコート・ド・ブルイイの持つミネラルを引き立たせるために、あえて樽は使わず父親ジャンから10hLのジャーを借りて、ファイバータンクとジャーで仕込んだ。出来上がったワインは果実味が限りなくピュアで、シストのタイトなミネラルが心地よく超エレガントな味わいに仕上がっている！アレックス曰く、今はまだ開けたては控えめで開くのが遅いので、カラフをするかまたは大きなグラスでサービスするのがおススメとのこと。

ミレジム情報 当主アレックス・フォワヤールのコメント

2021年は、日照量が少なく雨の多い涼しい年だった。冬は暖かく乾燥していた。ブドウの芽吹きもいつもより早かった。だが、4月8日未明に突然気温零下を下回る寒波が降りた。幸い、ブルイイもコート・ド・ブルイイもほとんど霜の被害はなかったが、この寒波の影響によりブドウの成長に一気にブレーキがかかってしまった。その後雨の多い不安定な天候が続き、ブドウの成長サイクルは3～4週間ほど遅れた。5月終わりから一時的に天気が回復。開花終わりまで晴天が続いたおかげで、開花は全て順調に終わった。ただ、4月の霜の影響もあり、開花はまちまちで、始まりから終わりまで10日ほど要した。6月終わりから再び雨が強く気温の上昇しない不安定な天候が続き、ミルデューが猛威を振るった。ミルデューはボルドー液でどうにか抑えることができたが、7月も雨が続き今度は黒痘病が繁殖し始め対処に苦労した。この病気の猛威により収量は例年の50%～70%減。8月からやっと天候が回復し始め、夏らしい暑さも戻ってきた。ミルデューと黒痘病の猛威も収まり、ブドウは遅れを取り戻すかのように一気に成熟に向かった。

2022年は、2020年に次いでブドウが早熟の年だった。冬は比較的温暖で雨も適度に降った。4月上旬に寒波が降り霜のリスクがあったが、幸い収量にはほぼ影響がなかった。寒波の後直ぐに今度は急激に気温が上がり4月、5月と初夏のような天候が続いた。ブドウの成長も一気にスピードを上げ、5月終わりの時点で例年よりも1ヶ月早い成長を見せた。また、開花も順調に終わり豊作が期待された。だが、一方で日照りが4月後半から8月まで続き、ブドウは慢性的な水不足のストレスを抱えていた。幸い、夏は昼夜の気温に寒暖の差があり、夜は比較的涼しかったので、ブドウもどうにか水不足に耐えることができた。8月中旬に、待望の雨が降ったおかげで、ブドウは一気に息を吹き返した。最終的に、記録的な日照りの年だったにもかかわらず、豊作に恵まれた！

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

今年も2月上旬にアンジェ近郊で開催される恒例のワインサロン Les Penitentes (レ・ペニタント) へ行ってきた。これは会場内を撮った写真。(写真①) 木金土と3日間開催される最終日に行ったのにまだこの盛況ぶりだ。このサロンにはアレックスと父のジャンがそれぞれ出展していて、会場が混む前に先に彼らのブースを目指し、ジャンとアレックスの妻ファニーに会えた。(写真②)



(写真①) ワインサロン ペニタントの風景



(写真②) ワインをサービスするアレックスの妻ファニー

試飲したワインは、今回日本でリリースするボジョレー・ヴィラージュ、ブルイイ、コート・ド・ブルイイの3種類。どれもエレガントで、特にブルイイ、コート・ド・ブルイイの2021年は涼しく上品で、いつもよりスレンダーに仕上がっていた。2021年は私も収穫に参加したので良く覚えている。雨の多い年で、ジャンもアレックスもブドウの完熟をぎりぎりまで待ってから収穫を始めた。ブルイイとコート・ド・ブルイイを試飲した時に、収穫の際に手の中でぼろぼろと実が簡単にほどけ落ちてしまうほどブドウの皮が薄く、取扱いを慎重にしないとイケなかった大変だった当時の収穫の情景が目についた。あの熟すのが厳しかったデリケートなブドウが、アレックスの醸造にかかるとこんなにもエレガントなワインに仕上がるのだから本当にあっぱれとしか言いようがない。

試飲ついでに、去年2023年の収穫状況はどうだったか？ファニーに聞いてみた。ちなみに、私は10年前からほぼ毎年ジャンの収穫には参加しているが、去年は日程が合わなく参加できなかった。彼女が言うには、2023年は最終的には収量に恵まれた満足のいく年だったが、夏の前半が冷夏でミルデューなどの病気が猛威を振るい、さらに収穫時期に雨が降るなど、肉体的にも精神的にもストレスによる疲弊が絶えなかったとのこと。一方で、醸造は何も問題がなくとてもスムーズだったようだ。一体どんなワインに仕上がるのだろう…今から楽しみだ。

(2024.2.3.ワインサロン突撃訪問より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ